

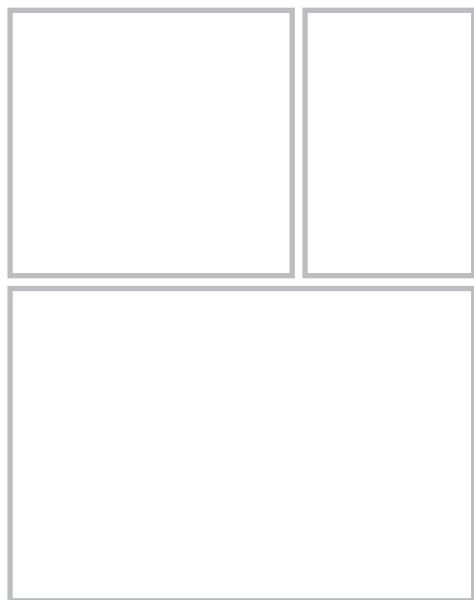
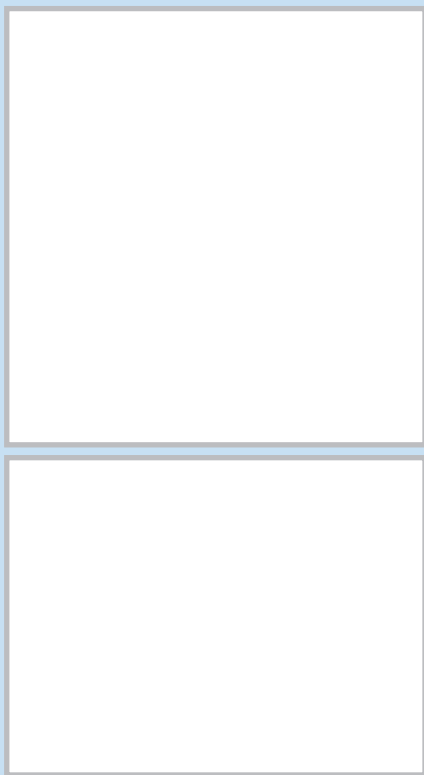


図 11.32 リベド (livedo)

火だこ，温熱性紅斑 (erythema ab igne)

MEMO

ストーブなど，同じ部位が温熱に長時間繰り返し曝露されることにより生じる網状紅斑。臨床的にはリベドであるが，病理組織学的に血管炎の像を呈さない。



5. リベド，皮斑 livedo

★

真皮および皮下脂肪組織境界部において，静脈網の緊張低下と動脈網の緊張亢進状態が生じることで生じる赤紫色～暗赤色の網状斑を認める状態を総称してリベドという。リベドを生じる状態はさまざまである（図 11.32）。大きく以下の3種に分類される。

①大理石様皮膚 (cutis marmorata)：基礎疾患のない小児や若年女性の下腿に，淡紅色で環の閉じた網目状の紅斑としてみられる。一過性で自覚症状なく出現し，寒冷時に増強し，温めることによって消失する。交感神経の関与が考えられている。

②分枝状皮斑 (livedo racemosa)：四肢に樹枝状で，環の閉じていない紫紅色持続性紅斑として出現することが多い。血管腔の閉塞や血流障害，血管壁の障害などをきたすさまざまな原因が考えられる（表 11.7）。

③先天性血管拡張性大理石様皮斑 (cutis marmorata telangiectatica congenita)：20 章 p.405 参照。

6. リベド血管症 livedo vasculopathy

同義語：リベド血管炎 (livedo vasculitis)，livedo reticularis with summer/winter ulcerations, livedoid vasculopathy, segmental hyalinizing vasculopathy

下肢を中心に疼痛を伴うリベドや紫斑を生じ，潰瘍を伴う原因不明の疾患である（図 11.33）。潰瘍の治癒後には白色の萎縮性瘢痕〔白色萎縮 (atrophy blanche)〕を生じる。全身症状を認めない。季節により増悪軽快をみることもある。病理組織

表 11.7 リベドを生じる状態

--